

科目名	国際経済と経営環境 Business in Global Economy		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・火・3 限	春・火・6 限	-	-
担当教員名	里見 泰啓	e-mail		

＜講義の概要と目的＞

経済のグローバル化が進展し、各国経済の相互依存が深まっている。そのためマクロ経済、また個々の事業活動も世界経済の影響を受けるようになった。

この講義では、国際経済学の考え方を紹介するとともに、グローバル経済のもとでの金融、企業活動の潮流、個別企業の対応を考えていく。

＜到達目標＞

国際経済のフレームワークの理解、グローバル経済の下での企業経営、事業運営についての着眼点を持つこと。

＜アクティブ・ラーニング要素＞

第 14 回と第 15 回授業に受講生のレポートをもとに討議する。

＜講義計画＞
1 回目： グローバル経済時代の日本経済
・要点：グローバル経済の進展と日本経済への影響を概観し国際経済のフレームワークをみる。
2 回目： 国際貿易の基礎①
・要点：貿易取引と経済発展の関係を解説する。
3 回目： 国際貿易の基礎②
・要点：基礎的な国際貿易理論を解説する。
4 回目： 国際金融論の基礎①
・要点：国際資金移動と経済発展の関係を解説する。
5 回目： 国際金融論の基礎②
・要点：基礎的な国際金融理論を解説する。
6 回目： 国際マクロ経済学の基礎①
・要点：マクロ経済政策の海外経済への影響を解説する。
7 回目： 国際マクロ経済学の基礎②
・要点：基礎的な国際金融理論を解説する。
8 回目： 国際間要素移動のメカニズム
・要点：資本、労働の国際間移動が各国経済に与える影響を解説する。
9 回目： 中間まとめ
・要点：8 回目までの内容を要約し、小テストを行う。
10 回目： 雁行形態の経済発展と生産・貿易パターンの変化
・要点：新興工業国の経済発展を題材に海外直接投資、貿易パターンの変化を考える。
11 回目： 国際分業の進展と貿易構造の変化
・要点：東アジアにおける国際分業の進展と貿易構造の変化の様相を探る。
12 回目： 日本企業の海外展開①
・要点：日本企業の海外進出を大企業の事例を中心に考えていく。

13 回目：日本企業の海外展開② ・要点：日本の中堅・中小企業の経済のグローバル化への対応を考えていく。 14 回目：グローバル経済の下での事業戦略① ・要点：受講生のレポートをもとに、グローバル経済下での事業戦略について討議する。 15 回目：グローバル経済の下での事業戦略② ・要点：受講生のレポートをもとに、グローバル経済下での事業戦略について討議する。
＜講義の進め方＞ ・講義は、Teams 等に掲載する講義資料を中心に進める。 ・小レポートをもとに受講生とのディスカッションを重視する回がある。また、小テストを実施する予定である。 ・受講生の興味、理解に応じて、若干、講義計画を変更する場合がある。
＜事前事後学修内容＞ 講義ノートを中心に必要に応じて参考文献を用いて予習・復習をする。 ＜予習・復習時間＞ 各回の予習・復習には計 4 時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をする。
＜教科書及び教材＞ 教科書は特に指定しない。講義ノートを配布する。
＜参考書＞ 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門 改訂 3 版』日本経済新聞社 クルーグマン・オブストフェルド・メリッツ 『クルーグマン国際経済学 理論と政策 上・貿易編』 丸善出版 クルーグマン・オブストフェルド・メリッツ 『クルーグマン国際経済学 理論と政策 下・金融編』 丸善出版 若杉隆平 『国際経済学 第 3 版』 岩波書店 など。その他は適宜、講義のなかで提示する。
＜成績評価方法＞ 欠席 6 回以上は成績評価しない。 小テスト 50%、レポート 50% で評価する ＜課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法＞ Teams 等にて全体に対するフィードバックを行う。
＜履修条件＞ 特になし。
＜ディプロマポリシーとの関連＞ アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当
＜録画映像の視聴＞ 可
＜オフィスアワー＞ 火曜 5 限
＜その他＞ 講義資料、参考文献の他、国際経済への関心に応じて文献などを参照してもよい。